

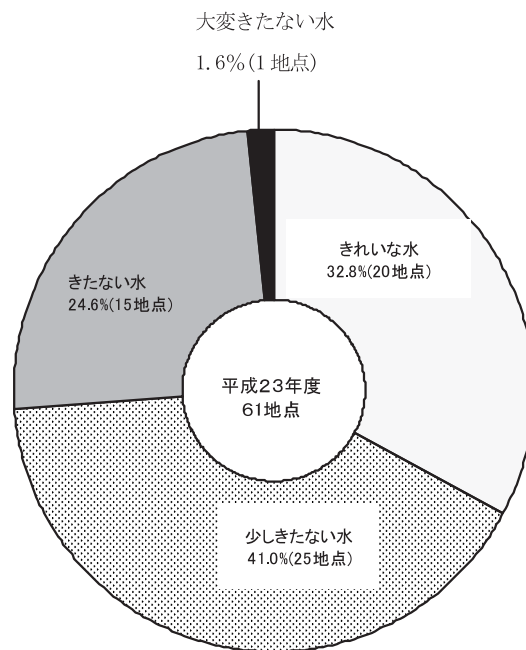
(2)結果

水質階級別調査地点数は、表－2に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は20地点(32.8%)、“少しきたない水”と判定された地点は25地点(41.0%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は15地点(24.6%)、“大変きたない水”と判定されたのは1地点(1.6%)であった。

<表－2> 水質階級別調査地点

水質階級		調査 地点数	(%)
きれいな水	I	20	32.8
少しきたない水	II	25	41.0
きたない水	III	15	24.6
大変きたない水	IV	1	1.6
計		61	100



図－2 水質階級別調査地点数の割合

<表－3> の表記例

調査団体	1 ページ<表－1>調査団体一覧の団体番号を用いる		
生物採取場所	1：川の中 2：上流から見て右岸 3：上流から見て左岸		
流れの速さ	F：速い（毎秒60cm以上） M：普通（毎秒30～60cm） S：遅い（毎秒30cm以下）		
川底の状態	1：頭大の石が多い	2：こぶし大の石が多い	3：小石と砂
	4：コンクリート	5：砂と泥	6：泥
	7：コケ	8：その他	
指標生物の出現状況	出現状況の欄に○印 ただし、出現した指標生物のうち、最も多かった種類には●印		

6. 調査結果一覧 (1) 調査結果一覧表

表-3

河川名	調査地点名	地点番号	調査団体番号	調査年月日	天気	水温(℃)	川幅(m)	生物採取場所	水深(cm)	流れの速さ	川底の状態	水質階級の判定	指標生物の出現状況																														[参考] H22年度 BOD(mg/l) 環境基準 類別の年平均値										
													I										II										III											IV									
													1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30											
													アミカ	ウスムシ	カワゲラ	ワカゲラ	ナガレトビケラ	ヒラタカゲロウ	アユ	ヘビトンボ	ヤマトビケラ	イシマキガイ	オオシマトビケラ	カワニナ	ゲンシボタル	オニヤンマ	コガタシマトビケラ	スズエビ	ヒラタドロムシ	ヤマトシジミ	イソコブムシ	タイコウチ	タニシ	ニホンドロンコエビ	ヒル	ミズカマキリ	ミスムシ	アメリカザリガニ	エラ	サカマキガイ	サセシユスリカ	テヨウバエ											
綾川	石井橋上流	15-1	16	H23.7.12	雨	24.0	30	1,2	50	M	1.2,3,5,7,8	II																																									
	城下橋下流	15-2	17	H23.6.10	雨	20.0	10	3	40	S	2,3	I																																									
	山田橋付近	15-3	18	H23.8.3	晴れ	25.0	24.5	1,2,3	50	M	2	III																																									
	柏原溪谷	15-4	18	H23.8.3	晴れ	14.0	5	1	30	F	3	I																																									
	滝宮橋上流	15-5	19	H23.8.4	晴れ	25.0	20	1,2,3	20	S	2	II																																									
	宮武橋上流	15-6	19	H23.8.4	晴れ	27.0	30	1,2,3	10	S	3	I																																									
	宮武橋上流	15-7	20	H23.6.23	晴れ	24.0	10	2	20	M	1,2	I																																									
	11号線 綾川大橋下	15-8	15	H23.8.9	晴れ	30.0	15	3	30	S	3,8	II																																									
	JR鴨川駅東	15-9	15	H23.8.9	晴れ	31.0	5	2	30	M	2	II																																									
	綾上小学下	15-10	15	H23.8.8	晴れ	27.0	20	2	21	S	1,3	I																																									
	長柄ダム上流 養魚場	15-11	15	H23.8.8	晴れ	25.0	7	2	15	M	3	I																																									
	柏原溪谷	15-12	15	H23.8.8	晴れ	23.0	4	3	30	M	1	I																																									
	下川津橋下	16-1	15	H23.8.9	晴れ	31.0	40	1,2	10	M	7,8	II																																									
	富士見橋	16-2	21	H23.6.21	晴れ	19.0	8	2	25	M	3	III																																									
	琴南中学校 北側	17-1	22	H23.7.25	晴れ	18.0	8	2	50	M	2	I																																									
	飯山町東小川 中方橋北側	17-2	23	H23.7.22	晴れ	24.1	17	2	40	M	2	I																																									
	丸亀市立城東小学校横	17-3	24	H23.8.26	曇り	28.0	8	3	20	M	2,6	III																																									
	金倉橋	18-1	25	H23.7.27	曇り	27.7	5	1	16	M	2	II																																									
	けんこうばし付近	18-2	26	H23.7.12	曇り	23.0	7	1,2,3	50	M	2	III																																									
	山階橋付近	19-1	27	H23.7.6	晴れ	24.5	5	1,2,3	45	M	2	III																																									
麻地区西森	20-1	28	H23.7.14	晴れ	23.5	3	1,2,3	30	S	2,3	I																																										
兒童公園横	20-2	29	H23.6.30	晴れ	29.0	10	3	30	S	3	II																																										
上高瀬地区	20-3	30	H23.9.11	晴れ	26.0	4	2,3	20	F	2,3	II																																										
三野町大見高脇	20-4	31	H23.7.5	曇り	26.0	1	1	10	F	3	II																																										
津の前集会場横	21-1	32	H23.10.3	晴れ	22.5	3	1	20	S	4,5	III																																										
一の谷川	22-1	33	H23.6.26	曇り	25.0	2	1	10-50	S	3,4	II																																										

一の谷川小橋から、大橋川分岐直前、並排出

(2)調査結果一覧(表-3)からの結果

a. 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度および調査地点において最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成23年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、ヒルであった。また、優先種となったのが一番多かったのは、スジエビであった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物の出現頻度(回)	指標生物の出現割合(%)	階級別出現割合(%)	優占種となった頻度(回)	優占種になった割合(%)
I きれいな水	1 アミカ	1	0.3	30.1	0	0.0
	2 ウズムシ	16	4.3		4	3.6
	3 カワゲラ	18	4.8		7	6.4
	4 サワガニ	15	4.0		4	3.6
	5 ナガレトビケラ	15	4.0		3	2.7
	6 ヒラタカゲロウ	20	5.4		5	4.5
	7 ブユ	8	2.2		1	0.9
	8 ヘビトンボ	11	3.0		2	1.8
	9 ヤマトビケラ	8	2.2		3	2.7
II 少しきたない水	10 イシマキガイ ※	8	2.2	33.6	1	0.9
	11 オオシマトビケラ	9	2.4		2	1.8
	12 カワニナ	25	6.7		10	9.0
	13 ゲンジボタル	3	0.8		0	0.0
	14 コオニヤンマ	11	3.0		0	0.0
	15 コガタシマトビケラ	10	2.7		1	0.9
	16 スジエビ	36	9.7		22	20.0
	17 ヒラタドロムシ	14	3.8		3	2.7
18 ヤマトシジミ ※	9	2.4	1	0.9		
III きたない水	19 イソコツブムシ ※	8	2.2	25.0	2	1.8
	20 タイコウチ	3	0.8		0	0.0
	21 タニシ	16	4.3		6	5.5
	22 ニホンドロソコエビ ※	2	0.5		0	0.0
	23 ヒル	38	10.2		20	18.2
	24 ミズカマキリ	4	1.1		0	0.0
	25 ミズムシ	22	5.9		7	6.4
IV い水 大変きたない	26 アメリカザリガニ	9	2.4	11.3	3	2.7
	27 エラミズ	12	3.2		2	1.8
	28 サカマキガイ	7	1.9		0	0.0
	29 セスジユスリカ	10	2.7		1	0.9
	30 チョウバエ	4	1.1		0	0.0

(注)割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

b.前年との比較

平成23年度の調査地点61地点のうち24地点が平成22年度と同じ地点での調査であった。これらの24地点の水質階級を比較すると、同じであったところが15地点、よくなったところが4地点、悪くなったところが4地点であった。

＜表—5＞前年度に対する水質階級の比較
(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より よくなった	前年度と 変わらない	前年度より 悪くなった	全地点数
調査地点数	4	15	4	24
割合 (%)	16.7	66.6	16.7	100

c. 河川別調査結果の概要

表—3から考察される河川別調査結果の概要は次のとおりである。また、各調査地点における水質階級は、図—1及び表—3のとおりである。

① 伝法川

伝法川では4地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はカワニナ、スジエビ、ヤマトシジミ、ミズムシ、エラミミズであった。

② 湊川

湊川では1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヒラタドロムシであった。

③ 与田川

与田川では1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、ヒルであった。

④ 爛川

爛川では1地点で調査が行われ、“きれいな水”と判定された。優先種はカワゲラ、スジエビであった。

⑤ 津田川

津田川では3地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”まで判定された。優先種はブユ、スジエビ、タニシ、ヒル、エラミミズであった。

⑥ 鴨部川

鴨部川では1地点で調査が行われ、“大変きたない水”と判定された。優先種はセスジユスリカであった。

⑦ 新川水系

新川水系では春日川2地点、葛谷川1地点で調査が行われた。春日川で“少しきたない水”“きたない水”、葛谷川で“きれいな水”と判定された。優先種は、春日川でカワニナ、スジエビ、ヒル、葛谷川でカワゲラ、ヤマトビケラであった。

⑧ 御坊川

御坊川では4地点で調査が行われ、“少しきたない水”“きたない水”と判定された。優先種はウズムシ、カワニナ、イソコツブムシ、ヒルであった。

- ⑨ 香東川水系
香東川水系では香東川 11 地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”まで判定された。優先種はウズムシ、サワガニ、ナガレトビケラ、ヒラタカゲロウ、ヤマトビケラ、オオシマトビケラ、カワニナ、コガタシマトビケラ、スジエビ、ヒラタドロムシ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑩ 小出川
小出川では 1 地点で調査が行われ、“きれいな水”と判定された。優先種はカワゲラ、サワガニであった。
- ⑪ 本津川
本津川では 3 地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”まで判定された。主な優先種はウズムシ、カワニナ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑫ 青海川
青海川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はカワニナであった。
- ⑬ 神谷川
神谷川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はヒラタカゲロウ、スジエビであった。
- ⑭ 綾川
綾川では 12 地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”まで判定された。主な優先種は、カワゲラ、ヒラタカゲロウ、スジエビ、ヒルであった。
- ⑮ 大東川
大東川では 2 地点で調査が行われ、“きれいな水”“きたない水”と判定された。優先種はウズムシ、タニシ、ヒルであった。
- ⑯ 土器川
土器川では 3 地点で調査が行われ、“きれいな水”“きたない水”と判定された。優先種はカワゲラ、サワガニ、ヘビトンボ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。
- ⑰ 金倉川
金倉川では 2 地点で調査が行われ、“少しきたない水”“きたない水”と判定された。優先種はイシマキガイ、スジエビ、ヒルであった。
- ⑱ 弘田川
弘田川では 1 地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。
- ⑲ 高瀬川
高瀬川では 4 地点で調査が行われ、“きれいな水”“少しきたない水”と判定された。優先種はナガレトビケラ、オオシマトビケラ、カワニナ、スジエビ、タニシ、ヒル、ミズムシ、アメリカザリガニであった。
- ⑳ 瀬入川
瀬入川では 1 地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。
- ㉑ 一の谷川
一の谷川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はスジエビ、アメリカザリガニであった。